

大山街道八王子道ウォーク

第16回原当麻駅（当麻市場バス停）からあつぎ郷土博物館（計画）

集 合 原当麻駅改札口 9時40分

歩行距離 約7.5km

第16回原当麻駅からあつぎ郷土博物館

実施日 2022（令和4）年12月14日（水） 天候 快晴 風 冷たく少し強い

参加者 折本 文雄、前北 勝司、中田 信義、中島 征雄 計4名

コース 原当麻駅（9：18）～当麻東原古墳（9：26）～当麻市場バス停（9：38）～
県道52号線（9：41）～宿交差点（9：44）～当麻の渡し標柱（9：51）～
相模川・昭和橋（9：54～10：04）～依知神社・狭水神社（10：06～09）～
上依知渡船場（10：14）～浮島弁天社・休憩（10：17～26）～他阿上人阿弥陀名号碑・
地藏像二体・上依知の渡し標柱（10：33）～堂坂説明板（10：46）～堂坂馬頭観世音
（10：52）～不動尊道標（11：03）～上依知歩道橋（11：07～11）～富士塚浅間神社
（11：14）～食事処「藤」昼食（11：25～12：15）～道標・題目供養塔（12：19）
～諏訪神社（12：21～26）～諏訪坂～諏訪坂石柱・子育て地藏尊・阿弥陀如来祠（12：31）
～馬頭観音（12：35）～善明寺川（12：38）～八王子道西ルート合流点（12：49）～
才戸橋際交差点（12：50）～（12：58）あつぎ郷土博物館バス停（13：10）⇒本厚木駅

写真は2019（令和元）年12月15日と本日のものを使用。

GPS

歩行距離：9.0km 累計歩行距離 148.1km

全体所要時間：3時間40分。移動時間：2時間35分。停止時間：1時間05分。

移動平均速度：3.50km/h。全体平均速度：2.46km/h。





9時15分に揃ったので、9時46分発のバスに乗る予定を、スタート計画のバス停まで歩くことにしました。



9時18分にJR相模線原当麻駅西口を出発。前回通った道を当麻東原古墳まで行き、古墳のある公園に突き当たるので右折。



当麻東原公園



段丘の縁の上を進み、高校の先で左折。坂を下り段丘を一段下り、今度は細くすごい急坂を下って無量光寺の裏を進むと坂の県道508号線に出るので左折し下る。前回通った天満宮からの歩道橋を潜るとスタートに予定していたバス停（当麻市場）がある。（9：38）ここまでの歩行距離1.3km。





県道508号線を下り、県道52号線を横切り（9：41）、県道508号線の次の信号交差点は『宿（しゅく）』という。（9：44）ここ「当麻」は相模川の渡しがあり、宿場として賑わったとのこと。



県道508号線を右に渡り進む。昭和橋の手前右に入る道の左に「当麻の渡し」標柱があり、ほかに、堅牢神石塔、馬頭観音石塔4基などがある。（9：51）



当麻の渡し

当麻は古くからの交通の要所で、この先には対岸の依知とを結ぶ渡し場がありました。特に大山参りが盛んになってからはこれを利用する人も増え、当麻はさらに宿場としてにぎわいました。





相模川に架かる「昭和橋」を渡る。



昭和橋

橋の架かっている付近ではかつて「当麻（上依知）の渡し」と呼ばれる渡し船が行われていた。これは平塚八王子道・埼玉往還路の経由地となっていた。渡船は上依知側に委託されていたが、明治24年（1892）に当麻側に渡賃が請求され始めた。大正14年（1925）に近衛工兵隊により仮橋を架橋も間もなく洪水で流失、再び渡船に戻るが昭和3年（1928）の洪水で渡船に被害が出た。

この災害復旧事業として架橋が決まった旧昭和橋は昭和の経済不況のあおりを受けたものの、昭和6年（1931）11月に開通。その後、昭和41年（1966）の改修により、車道5.5m、歩道1.5mに拡幅された。平成2年（1990）に昭和橋側道橋が整備され、平成4年（1992）にはさらに橋面整備が行われ現在に至る。

橋概要

- ・1931年（昭和6年）完成、1992年（平成2年）改修。
- ・形式——16径間鋼板桁橋
- ・橋長——363.6m

なお、500m程上流にあり、国道129号線厚相バイパスが通る「新昭和橋」は、昭和55年（1980）に完成。橋長は756m。



350m超えの相模川の架かる昭和橋（9：54～10：04）を渡ると厚木市となる。渡った交差点の右側に「依知（えち）神社」がある。社地は相模川を渡る昭和橋の建設に伴うより北西側と南東側に分断されている。南東側には神木の銀杏や神楽殿がある。（10：06～09）



依知神社

祭神：磐筒之男命。創建：不明。境内社：狭水神社、火防稲荷社、稲荷社、神明社、秋葉社、御嶽社。
道祖神碑、地神碑。

由緒：創建年代等是不詳ながら、赤城社と称し、旧社領は源頼朝の寄進と伝えられ、境内では時々競馬も行われ、祭典では金田まで神輿が渡御する依知郷の鎮守社として祀られていたと伝えられます。

徳川家康関東入国後の天正19年（1591）には社領一石を受領、上依知村の鎮守として祀られていました。明治6年依知神社と改称、村社に列していました。



依知神社 社殿



境内の記念碑、依知の沿革由緒石碑の碑文



依知神社の沿革由来（境内の石碑より）

縄文弥生の往古より遠い祖先は磐筒男命（中島注）を祭神に依知神社を創建し、郷土の開発に尽力して来たのである。（注「磐筒男命 いわつつのおのみこと」：古事記[石筒之男神]、日本書紀[磐筒男神]でイザナギが十拳剣で、妻のイザナミの死因となった火神カグツチの首を切ったとき、その剣の先についた血が岩について化生した神。経津主神の祖。）

第五十代桓武天皇六代の後裔平将門公関東平定の節当社に参詣し相模川氾濫の苦難を眼前に熟視され、赤城山神馬猷進の託宣を給い忽ち堅牢なる護岸の完成が実現したのである。これに感謝感激し

た氏子は、将門公の御霊を相殿にして天慶元年（937）社殿を再建し、赤城明神社と称したのである。

建久三年（1192）源頼朝公鎌倉幕府を創設せられるや当社の沿革由緒に深く感銘され、拾万余坪に及ぶ社領を寄進されたという。その境内は祭り競馬をした所を馬場、大鳥居のあった所を鳥井戸という地名にして現代に遺す程広大なる土地であった。続いて鎌倉幕府第二代源頼家公は、建仁二年（1202）当社の社殿再建記念に銀杏を寄進されたという。それが現在厚木市指定天然記念物の神木大銀杏である。

天正十九年（1591）徳川家康公は当社の由緒経緯と氏子の誠意に深く感動され御朱印壺石を下賜されたのです。以来依知郷の郷社として祭礼も盛大に行なわれ金田村までも御輿が渡御したと伝承されている。

明治四年広大な社領も維新の大改革により上知となり次いで社地の払い下げを得て同二十七年七月十九日に依知神社と社号を改名し現代に至っているのである。

当社は上記の通り千有余年の往古ささやかな一農村の守護神として創建され靈験あらたかに郷土発展の支柱となり、氏子住民は言うに及ばず他地域有名人の崇敬を受けて来たのである。その間天変地異、栄枯盛衰の試練に堪えて祖先は新築造営維持修繕を幾度も繰り返し神社を守って来たのである。

昭和現代の今ここに氏子崇拝者一同の絶大なる浄財の結果を得て荘厳なる社殿増改築の実現を完遂したのである。

新社殿の大前に益々諸難や治安の守護神とし、又五穀豊穰大願成就家業繁昌の神として地域住民の福祉安泰を鎮守されるよう畏（かしこ）み畏み祈願するものである。

昭和五十七年四月二十五日依知神社社殿改築造営の竣工に当り記念碑を建立し当社の沿革由緒を述べ後世に伝える次第である。

（完）

境内社 狭水（さみず）神社 （社内の石碑より）



祭神は水の神罔象女（みずはめ）の命である。寛文七年（1667）水天宮として幹線水路の一の関の所に地区農民により祀られた。

その後、元治元年（1864）依知神社境内に安置され、相模川の水害を防除し依知地区水田の灌漑用水を守り、耕作農民の生活安全と豊作を守護している。

明治末期入之藪水利組合が設立されると共に狭水神社と改命し秋の祭日には農民の代表が参列して祭事を行っている。

昭和五十七年四月吉日

正一位火防稻荷大明神



この社殿は、星梅山妙伝寺（日蓮宗）に本社があり、明治時代末に村内に火災が多く困っていたので、村の先代が村の火災の守護神として分魂をお願いして、依知神社の境内に社殿を建立しました。

その後火災のあるときは、火防稻荷大明神の赤旗を屋根棟にかざすと風向きがかわって、火災を逃れたという話もある。

二十三夜塔



二十三夜の月の出には阿弥陀三尊が現れこれを拝する者には極楽浄土への道が開けるといふ信仰から講中が集まり終夜に及ぶ飲食などの月待行事を行った。

今生も後生も安楽な生活ができるようにと講中の願いをこめて建立されたのがこの塔である。

境内には他にも石塔・石造物がある。



依知神社から県道508号線を横切り、相模川右岸の土手下を進むと300m程の左に土手を上る階段があり、上に「上依知渡船場」標柱がある。(10:14)



上依知渡船場

中世から、古道八王子道の上依知村と対岸当麻村とを結ぶ相模川の渡船場があった。江戸時代に盛んとなった大山参りには、埼玉・八王子方面からの大山道として大いに利用された。明治期には上依知に委託運営されていたが、昭和三年の増水で渡船に被害が出て、昭和橋が完成した昭和六年、その役目を終えた。

階段を降り、80m程進んだ左側に「浮島弁天社」がある。ここで休憩。(10:17~26)



浮島弁天社の由来

明治初年のこと、旧荻野山中藩士松下格信の発案により、相模川の中州にあって、水害をもたらした弁天社のある浮島を取り除く爆破が無事成功した。が、その直後に不思議や弁天様の化身が現れた。

早速上依知村村民は、この地に社を建立し弁財天を祀り村の平安を祈念したのである。

道を150m程戻って左への道を250m程(変則十字路の先)の左に「大塚建設」の看板がある十字路を右折し、60m先右側に「他阿上人阿弥陀名号碑」「地藏像二体」「上依知の渡し標柱」がある。(10:33)



他阿上人阿弥陀名号碑



鎌倉時代末、一遍上人は諸国を巡り南無阿弥陀仏の六文字を唱え、念仏札を配り、念仏勧進の旅を続けていた。弘安四年(1281)相模の地に入り、当麻山に巡錫(じゅんしゃく)したという。

一遍上人没後、二世他阿真教が上人の分骨を奉じて嘉元二年(1304)当麻山に無量光寺を創建した。無量光寺歴代住職は、他阿上人と称し、一遍上人の意を継ぎ近郷民衆に念仏を説いて布教に努めた。

この名号碑の建立年代・建立者は不明だが、名号下部に一遍上人三十代他阿とあり、三十代住職の活動期(室町末期永禄四年~安土桃山初期天正十三年)の建立と推定される。建立者は無量光寺に関係の深い近在の方々であろう。

上依知の渡しの標柱



ここは、渡し船のあったところで、対岸の当麻村と結ぶ交通の要衝であった。また、このあたりは一遍上人が水難防除の念仏を唱えられた所と伝えられている。



右カーブして40m、左折して200m程で県道508号線に出る。信号交差点を渡り左折。170～80m進んだカーブの手前の右への道に入る。ここから上り坂となる。住宅地を少しつつ上り170～80m程の丁字路を左折し、急となってきた坂を上ると石塔・石仏があり、その上に「堂坂の由来」説明板がある。(10:46)。



堂坂の由来

「この山傾斜地に靈驗あらたかな観音堂があり多くの信者が参詣したのでここを堂坂と呼ばれるようになった。

その堂は今はなく観音像だけが上依知の宝泉寺に安置されている。」

坂は益々急となり、左右に「堂坂」標柱や道祖神がある。



堂坂

坂の途中に七面堂（観音堂）があり、この七面堂へ参拝したので、堂坂と呼ぶようになった。今は七面堂はなく、観音像は宝泉寺に安置されている。

更に160m程上ると分かれ道があり、その角に「堂坂の馬頭観世音」がある。（10：52）



堂坂の馬頭観世音



《説明板より》 (右面) 慶應三卯歳仲冬造之 (左面) 東都北嶺下 七十星英闌○
 「江戸中期以降、農民にも馬が持てるようになると各地に馬頭観世音碑が造立されていった馬頭観世音は馬の供養のために造立されたものであるが、単に墓標の意味を持つものと馬持連中（講中）が馬の道中安全や無病息災を願う記念碑的意味を持つものがある。」

銘文

(右面) 慶應三卯歳仲冬造之

(正面) 馬頭観世音

(左面) 東都北嶺下 七十星英闌○ (○は、くにながまえ口の中に彫)

(ウラ面) 厚木 石工 秋元忠次郎

(高さ 142cm 自然石 市内最大)

当地は旧八王子道の要所にあり人馬の往来も多くあった所だ。

この碑は死馬供養伝承もあるが、大きさや立地から往来人馬安全祈願所と言える。」



左の道を右カーブして台地上に出て、Y字路を右に進んだ左手（老人ホームの傍ら）に庚申塔が2基祀られている。



左カーブして180m程で県道508号線に出るので、斜めに横切る。
100m程進むと十字路があり、その右角に「不動尊道標」がある。(11:03)



正面/ 東



右面/ 北



左面/ 南



裏面/ 西

不動尊道標

この地は、南北方面に通る八王子道と東西に通る大山道が交差する交通の要所であり、道標の表示は詳細である。

正面「東／ 東京 横濱 神奈川／ 座間 町田 鶴間 磯部／ 座間休息山 全星ノ谷観音 大師河原平間寺 猿ヶ島渡船／ 道」

右面「北／ 八王子 埼玉縣／ 津久井 橋本 久保沢 田名 上溝／ 當麻山無量光寺 武州高尾山 上依知星下妙傳寺 上依知渡船／ 道」

左面「南／ 厚木／ 平塚 大磯 小田原 馬入／ 金田妙純寺 江ノ島神社 鎌倉八幡宮 中依知蓮生寺／ 道」

裏面「西／ 大山／ 才戸 荻野新宿 伊勢原 十日市場／ 八菅神社 半原滝 三田清源院 飯山観音／ 寄付人 中丸重郎平 明治二拾六年 上依知民口 施主宝泉寺」

傍らに石塔、石仏がある。





十字路を右折して左カーブし90m程進むと県道508号線と合流するので「上依知歩道橋」でK503と国道129号線を越え横切る。



110m程進むと右斜めへの道があり、入ると三叉路の角に「富士塚浅間神社」がある。(11:14)



富士塚浅間神社

「宝永四年（1707）富士山の大噴火により当地は大量の降砂があり人々は富士山の祟りを鎮めようと降砂を一ヶ所に集めて富士塚をつくり浅間社を祀ったと伝わる。

塚は高さ6mもあり、樹木も茂り小山のようであったが、昭和十五年この北方に熊谷陸軍飛行学校相模分教場（中津飛行場）建設時に、飛行訓練に支障があるとして塚の大部分は切り崩され畑になった。

周辺地の開発が進んだ昭和四十年代この神社が建てられた。

神殿内には、天保年期や江戸の商人名のある祠の破片、昭和十五年建立の浅間社、稲荷社の石祠が納められている。」

700m程進んだ県道65号線との交差点の傍らの食堂「藤」で昼食をとる。(11:25～12:15)



左の道に出て、道なりに800m強（県道65号線の横切った先）の丁字路を左折。直ぐ左の下川入第一自治会館の脇に「道標」と「題目供養塔」がある。(12:19)

道標



道標

「この場所は信玄道（津久井道）と大山道が交差する角地にある。

西を示す正面に「右 下ゑちほし下り道／ 左 甲州みのぶ道」

北を示す左面に「死馬祓供養」とある。

文化二年（1805）、日蓮宗檀家講中によって建立されたものと考えられる。」

題目供養塔



題目供養塔

「題目碑は、日蓮上人の御思に感謝し追善する意図をもって建立されたものと考えられる。

正面に題目「南無妙法蓮華經」が刻まれている。

川入村の星下り（金田妙純寺）の檀家講中が文化元年（1804）に建立したものである。」



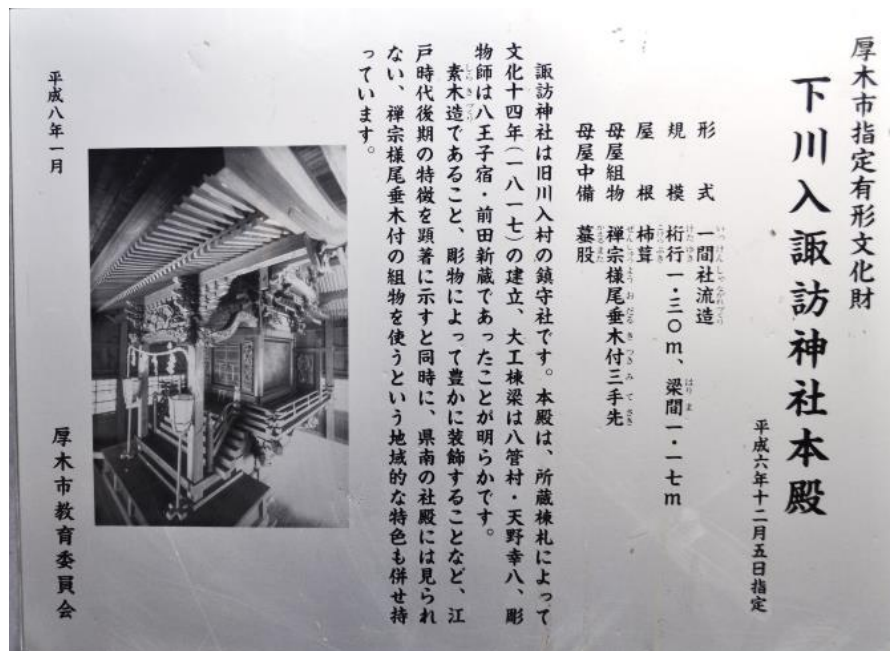
直ぐ先に「諏訪神社」がある。境内に「諏訪の森」「六本松」の碑がある。(12:21～26)



諏訪神社



下川入村の鎮守、祭神は建御名方神である。建御名方神は大国主命の次子であり、諏訪神社（長野県諏訪市）の祭神となったことが『古事記』にみられる。例祭について、『新編相模国風土記稿』は7月27日と記しているが、現在は8月27日に行われる。



本殿（厚木市指定有形文化財） 素木（しらき）造の一間社流造である。棟木によると、この本殿は文化14年（1817）、ハ菅村（愛川町中津）の大工棟梁の天野幸八、豪華な彫物は八王子宿の前田新蔵が携わった。規模は桁行4.3尺、梁行3.9尺である。複雑な彫物により豊かな装飾を施す江戸時代後期の特色をよく示している。



諏訪の森



甲州の武田信玄が小田原の北条氏攻略の帰路、三増合戦が展開され、この時の記録「甲陽軍鑑」の諏訪の森がこの地である。現在の下川入諏訪神社で通称「六本松」と呼ばれている。

六本松

天保12年（1841）完成の『新編相模国風土記稿』によると「諏訪社」（村持）を鎮守とし、（中略）、往古社地には六本松（一幹六本に分かれる）と呼ぶ老樹があつたが中古枯槁したと記載されている。

江戸時代に枯れた六本松の後継として若松の木を6本植えたが、この松も順次枯槁していった。

諏訪神社から10m程戻った左の手摺りのある細坂道を降りる。右左と曲がりながら降り、最後金網の左右への道は左の新諏訪坂に沿った道を下る。この細い急な曲がりくねった坂が旧諏訪坂で、旧諏訪坂は新諏訪坂を横切って段丘下・下川入の低地まで下って行ったと思われる。





新諏訪坂に沿って下る。カーブの地点に「諏訪坂」標柱があり、隣に「安産子育地藏・阿弥陀如来堂」がある。(12:31)



諏訪坂

下川入には古くより中津原台地から中津川沿いの低地に下る坂が三ヶ所あり諏訪坂は坂の上に村の鎮守である諏訪神社が所在することから呼ばれ、別名を上坂とも言われている。



安産子育地藏・阿弥陀如来堂
由来等不明



道を渡り、坂の下を戻るように進むと馬頭観音他多数の石仏石塔がある。(12:35)



馬頭観音

馬頭観音は、江戸時代中期以降、農民が農耕用に馬を持てるようになってから愛馬の供養碑として建立されるようになった。

ここで最も古いものは、天保十一年（1840年）佐野氏建立のものである。

善明寺川に架かる諏訪橋を渡り道なりに進む。善明寺川から120m程の左に「向原の道祖神」がある。



向原の道祖神

「道祖神は、外から襲い来る疫病や悪霊等を村境や辻、橋のたもとで防ぐ神として祀られている。

正月にはセイトバライ行われている。

この塔は、明和九年（1772）十月に建立されたものである。

かつては、となりに男女の双体像が彫られた塔があったが風化し原形をとどめていない。」

左カーブして、下川入児童館のある十字路を右折する。300m程でのY字路は新道から右の道に入る。この道が旧道。



右の道が旧街道

150m強で県道63号線に出るので左折する。ここで八王子道西コースと合流。(12:49)
(県道を横切って直進、中津川を渡るのが旧道。才戸の渡しは才戸橋の上流にあった。)

左折して右側に才戸橋がある十字路を横切り、300m程のY字路を左へ道なりに進むと「あつぎ郷土博物館バス停」がある。12時58分到着。その奥に「あつぎ郷土博物館」がある。

「あつぎ郷土博物館」は12月12日～17日は臨時休館で、見学出来ず。13時10分発本厚木駅行きのバスに乗って帰途につく。



なお、あつぎ郷土資料館がある場所は「菁菰小学校」の跡地である。(注：菁菰(せいが)＝役立つ人物を教育すること)

菁菰小学校

『明治25年下川入、棚沢両小学校を統合し、中津川左岸才戸橋付近に、詩経の中の「菁菁者莪樂育材也」から校名が選定され、菁菰小学校として創立された。』

大正4年校舍焼失。仮校舍で授業を続け、大正9年多度が岡と称するこの地に新校舍が建設された。昭和41年、厚木市の学校教育整備の実施に基づき廃校となった。』

ちなみに、「菁菰(せいが)の名は、左奥の公園「下川入菁菰公園」に残っている。
このバス停が

今日の終点で大山街道八王子道ウオークの終点でもあります。

以上

次回からは「八王子千人同心日光往還ウォーク」東松山から栃木県佐野市（例幣使街道合流点）までを実施する予定です。

【計画】

- ◎東松山東平バス停からＪＲ吹上駅
- ◎ＪＲ吹上駅から秩父鉄道 行田市駅
- ◎行田市バスターミナルから秩父鉄道 東行田駅
- ◎秩父鉄道 東行田駅から秩父鉄道 新郷駅
- ◎祥雲寺バス停から東武伊勢崎線 茂林寺前駅
- ◎東武伊勢崎線 茂林寺前駅から東武伊勢崎線 館林駅
- ◎東武伊勢崎線 館林駅から東武佐野線 田島駅
- ◎東武佐野線 田島駅から天明宿・例幣使街道合流点～東武佐野線 佐野駅

以上